

こいのちほ 赤ちゃん



隅田早希ちゃん
平成7年12月5日生まれ
(上野田)

豊三さんと恵美さんの間に生まれた早希ちゃん、女の子らしく、みんなに呼んでもらいやすいようにと、お父さんが名前をつけてくれました。

現在、ひじいちちゃん、おじいちちゃん、おばあちゃん、両親と6人で暮らしています。みんな早希ちゃんがかわいくてしかたないようで「自分の子から孫、ひ孫とだんだんかわいくなる」とひじいちちゃんの準さん。早希ちゃんが生まれるまでは男の子を欲しがっていた豊三さんは、早希ちゃんを見ると「やっぱり女の子がいい。嫁にはやらない」と言ったとか……。

お母さんに似て少し気が強いところもあるようですが「みんなに好かれ、誰とでも話のできる子になってほしい」とご両親は願っています。

短歌

永へば早春の味又一つ心置かに芽鉤に酔う
植野 原 茂子
庭鳥の里に晩冬の雪降るも
氣配はすでに春のただよい
奈良にて 中司愛子
震美の傷あと今だ癒えぬども
有馬の宿は客迎えおくり
十市 八松久幸
深山路にかえる夕日を見送れば
暖かき愛のさすなが胸にしみ
十市 大家寿恵子
やわらかき光ひろがる枕辺に
ホーケキョと聞く早春の詩
里改田 河田柱子
外出もせざれば窓より雲の見ゆ
形かえゆく空に遊べり
立田 北村幸江
初つばめ姿見す日の近ければ
納屋の雨戸を少し開けおくり
岡重町 葛目愛子
軽作の割り当受けて帰る夜は
雨降り来る村の知道
岡重町 葛目愛子
春園の写真にまみれる孫の顔
ありありとして我が幼顔
三島 有元一馬
削られて塗られて哀れふる里の
山は闇夜にうなだれており
嶺石 唐岩勇

俳句

寒婚離を告げる肝文高らかに
前浜 竹村佐知
妙法にらばらる靴や挽ひ風
前浜 高木喜美
雪解や春葉を伸ばす萱村の本
赤路 川村正意
横やかな青天と見て干蒲田
浜改田 溝淵 保
桃の花小鳥さえづる小春日に
十市 田所小夜子
芦原をどんどん行くと火が更えてる
福 始 和田幸平
早朝の計報水仙濃く匂う
里改田 山月みよ
ゆつたりと川流れおり大枯野
堀の内 北岡高子
小屋の灯が星の一つとなる雪積
大 堀 山本和子
老の身をオオノ頼い生きて行く
里改田 田所千枝
春なれど弥生は夫の散りし月
大 堀 佐竹千代
川柳
尾岐の島珠を索ずる雪ゲルマ
緑ヶ丘 加美寿龜

市の統計

面積	125.25k㎡
人口	43,386人 (-44)
男	23,143人 (-18)
女	25,243人 (-26)
世帯数	13,261世帯 (-5)
()内は前月比	
《平成8年2月29日現在》	

火災・救急

《火災》		《救急》	
発生件数	6件	出動回数	103回
建物	2件	急病	59回
山林	0件	交通事故	20回
その他	4件	一般事故	13回
被害額	249万円	その他	17回
《平成8年2月分》			

まほろば

イギリス人の写真家ジョニー・ハイマスさんが、日本の水田をテーマにした写真集「たんぼ」を出版している。外国人の目に映ったその情緒的な写真を見て、素直に「美しい」と感動した。彼は「田んぼは法隆寺や大仏様以上に日本の心を感じさせる最高の文化遺産だ」と語っている。水田は、人間が作った人工的なものである。現代の人工的なものが、ことごとく自然をむしばんでいるように見えるのに、水田は見事に自然と共存している。縄文晩期以来、二千数百年も耕作されてきた日本の水田は、単に農作物生産の場としての役割だけでなく、美しい景観の維持や貯水機能など、国土の保全という役割を担ってきた。そして水や土を通して様々な生き物の命も育んできた。そのような水田の貢献が、近年各地で評価されてきている。地域の活性化や発展は望ましい。開発も必要だ。そのためには水田機能の理解をより深め、うまく「共生」することを考えて緑豊かな香長平野の自然をいつまでも残したいものである。厳しい減反政策の中、今年も田植えが始まろうとしている。(宮)